

事三ヶ年、康平治曆、其間十二年也、合戰討勝、首級得一萬五千餘、天喜年中上洛、爲褒美、依勅命、五七桐紋免許、故當家利氏御紋五七桐、二引兩云々、桐者根本安家之紋也、八幡殿、貞任御退治以後、御上洛之時、依被望申下、賜此桐紋云々、

〔碧山日錄〕長祿四年九月廿一日甲午、南帝之孫大塔太子、嘗聚凶賊、據笠置之險、將軍尊氏奉詔出師、三瓶原、將軍未出師之時、入海住山、禮解脫之像、尋欲見上人隨身之具、衆僧出之、中有木屐一雙、以桐木所造也、將軍喜曰、予前夜夢、以桐屐擲天下、乃分其片屑、著之甲衣之上、遂平敵、以執天下之柄也、自是以桐葉爲家紋、且表屐二齒、爲二劃、謂之二引兩云、

〔挾物之記〕はさみ物とは、方四寸の板本也、中花にも櫻花などは立まじき也、中桐の葉は御紋略、將軍足利氏なる故に立す、

〔寛永系圖〕一色 源姓家幕紋五三桐 亦二引龍

〔羽倉考〕藤丸ノ文之事

中古以後ノ事ナレバ、藤氏ヨリ出タルナルベシ、中古以來、月卿大略藤氏ナレバ、其姓ノ名ニ依テ、藤ノ丸ヲ用ヒ、其後多キニ從フテ、諸氏混ジテ用フルト見エタリ、

〔宗長手記〕越年大永は、薪酬恩庵、傍捨密下、爐邊六七人あつまりて、田樂の鹽噲のついで、誹諧たびたびに、略

藤原うちのもんはふぢなし、略

〔寶永落書〕紋、蛇の目あがり藤、加藤遠江守

割はなし元じめ共はあがり藤、蛇の目もこはき加藤遠州

〔諸家系圖纂〕二十山中家紋、橘、和銅元年十一月廿五日、左大臣諸兄、元明天皇列宴會、賜於浮杯之橘、勅曰、橘者是菓物之長、則爲汝姓、故紋圖之、